

「いよいよ、インド」はホンモノか

NRI インド パートナー 郷 裕

筆者は、2024年2月に発刊した『パブリックマネジメントレビュー』2月号にて「いよいよ、インド」と銘打って、高い経済成長を示すインドの魅力を報告した。当時から約2年半が経過し、インド熱はさらに高まっているかどうか検証したい。

インドの経済成長は高水準を維持している。国際通貨基金 (IMF) の統計によると、インドの実質 GDP 成長率は 2021 年度に 9.7% と大幅なプラス成長を果たした。22 年度以降も 7% 台の高水準を維持し、26 年度も 6.5% 成長が予想される (26 年 4 月時点)。過去 5 年間、継続して高水準を維持しているのは G20 の中でもインドのみである。インドの 1 人当たり GDP は、IMF の統計によると 25 年度 2,675US ドルと G20 中最下位であるのは変わらないが、ベンガルールの 1 人当たり GDP が 1 万 US ドルを超える*など、メトロ都市の魅力はますます高まっている。政府は次々に振興策を打ち出し、独立 100 周年を迎える 47 年に向けたビジョン「発展したインド (Viksit Bharat)」達成に余念がない。中東情勢悪化に端を発するエネルギー価格上昇や、不安定な貿易・金融情勢など世界経済全体が不透明な中でも、巨大な内需が支えるインドの魅力は相対的に高まっている。

日系企業のインド熱は高まり続けているか。日本貿易振興機構 (JETRO) が発表した「2025 年度海外進出日系企業実態調査」によると、今後 1～2 年の事業展開の方向性としてインドを「拡大」と回答した企業は 81.5% に上り、最も関心が高い国の一つになっている。また、財務省の統計によると日系企業のインドへの対外直接投資は、2023 年に前年比約 2 倍の 8,455 億円と中国・タイを抜きアジアではシンガポールに次ぐ存在感となった。現時点で「いよいよ、インド」はホンモノといえる。

ただし、日系企業のインド進出企業数を見るとインド熱はまだ道半ばである。在インド日本国大使館、総領事館および JETRO がまとめた 2024 年 10 月時点の全インドにおける日系企業数は 1,434 社、拠点数は 5,205 拠点とそれぞれ前年比 2.5% 増、5.0% 増と思うように伸びていない。背景の一つには、インドへの投資は主に大企業によるもので、中堅・中小企業の進出・投資が活性化していない点にある。在インド日系企業の中堅・中小企業の割合は 15～20% といわれており、40～60% といわれる中国・東南アジア諸国連合 (ASEAN) より少ない。自動車・電機など製造業においては、完成品メーカーがインドへの積極的な投資を進める一方、サプライヤーである部品・原材料メーカー、工場を支える設備メーカー・加工メーカーは投資に慎重である。また、他地域と比べ、小売・卸売業やサービス業の進出が少ないのも課題である。日印関係が深まる中、海外展開においてインドが核の一つになるのは疑いない。中堅・中小企業も進出し、日系企業がインドのエコシステム全体に貢献できる姿こそが「いよいよ、インド」の次のステージであろう。

※ Euromonitor International 社データを基に推計